

横浜市 歴史博物館 NEWS 2 1995・11



- ◆特別展「中世の世界に誘う 仏像
——院派仏師の系譜と造像——」
- ◆収集資料の紹介[4]百万塔
- ◆＜常設展示室探検＞映像コーナー
- ◆＜知ってますか？＞図書閲覧室

中世の世界に誘う

特別展

仏像

院派仏師の系譜と造像

横浜市金沢区の称名寺には、鎌倉時代末に造立された木造の釈迦如来立像と金剛力士立像があります。これらの像は、体内に記されている墨書銘から、釈迦如来立像は徳治三年（一二三〇）に大仏師院保以下院吉など一七名の仏師によって、金剛力士立像は元亨三年（一二三三）院興、院救等の仏師によって造られたことが知られています。

仏師院吉は、運慶や快慶ほど著名ではあ

この展覧会では、鎌倉時代末から南北朝時代に活躍した「院派仏師」に造られた仏像三九体を展示し、その作風と造像技法を考察するとともに、文書や記録によって知ることのできる彼らの事蹟から、そこにかかわった有力な公家、武士、僧侶との関係など日本の中世の世界を展望していきます。

なお、この特別展の開催にあたっては、企画・構成、図録の編集など全般にわたり、



千手観音菩薩坐像(東京国立博物館)



釈迦如来立像(神奈川県・称名寺) 重要文化財

成城大学教授清水眞澄先生の監修をいただきました。

【主な展示資料】 重要文化財

- ◎ 神奈川・称名寺……釈迦如来立像
- ◎ 山形・本山慈恩寺……薬師如来及両脇待像
- ◎ 京都・京都市……地藏菩薩立像
- ◎ 東京・読売新聞社……妙見菩薩立像
- ◎ 神奈川・建長寺正統院……高峰顕日坐像
- ◎ 滋賀・聖衆来迎寺……地藏菩薩立像
- ◎ 山梨・横雲寺……普応国師坐像



如来坐像(愛媛県・東円坊) 院吉作

●会期＝1995年11月11日(土)～12月10日(日)

●観覧料

区分	特別展	特別展・常設展
一般	400円(320円)	600円(480円)
高校生・大学生	200円(160円)	300円(240円)
小学生・中学生	100円(80円)	200円(160円)

() 内は団体(20人以上)料金

百万塔

当館では、数少ない古代の資料として、百万塔を一基保管しています。これは、平成三年度に穴戸昌夫氏よりご寄贈いただいたものです。穴戸氏は横浜市立

大学医学部教授を勤められ、公衆衛生に長年尽力されたことにより、平成三年に横浜文化賞を受賞されました。

奈良時代の天平宝字八年（七六四）に起きた惠美押勝の乱を契機として、称徳天皇は

「陀羅尼經」の説く所に従い、鎮護国家として、百万基にも及ぶ木製の三重小塔を作られました。これが百万塔です。百万塔には

「陀羅尼經」が納められ、宝龜元年（七七〇）四月、大安寺・元興寺・興福寺・薬師寺・東大寺・西大寺・法隆寺・弘福寺・四天王寺・崇福寺の十

大寺に分置されました。現在残っているのは法隆寺だけで、四万

五七〇〇余基が伝来しており、その中の一〇〇基は、七重の一萬節塔、十三重の十萬節塔と共に国の重要文化財に指定されています。

百万塔の三重の塔身は松材、上部の相輪は榿・桜などの材で、いずれも轆轤挽きで製作され、白土が塗られています。

塔の高さは約二・四センチで、塔身底面や相輪には製作年月日や工房名、工人名を墨書したものが多くあります。これまでに知られる工人名は約二八〇名に及んでいます。平城宮跡からは未完成品が発見されており、百万塔は宮城内の工房で製作されたと考えられています。

塔身の中心には上部から筒状に孔が開けられ、麻紙が楮紙に版で刷られた根本・相輪・自心院・六度という四種の陀羅尼經の一つが納入されています。これらの陀羅尼經は、製作年代の判明する印刷物としては、世界最古のものです。

当館が保管する百万塔は、相輪の一部が少し欠けていますが、白土も残り、轆轤目も鮮やかで、良好な状態です（写真1）。残念ながら、墨書はありませんが、塔身底部には材を轆轤軸に固定する際

についた爪跡が見られます。中には、丸めた状態で「相輪陀羅尼經」が納められていましたが、はじめの部分が若干欠損しています。しかし、保存状態は極めて良好です（写真2）。

明治四一年（一九〇八）、法隆寺は寺門の維持のために、百万塔のうち三〇〇〇基を篤志家に配布しました。寺門への御布施により、百万塔を譲渡したのです。当館保管の百万塔は、穴戸昌夫氏の父・俊治氏が法隆寺に二五円を寄付し、譲渡されたものです。このことを証明する法隆寺発行の「証書」（写真3）、「百万塔譲渡規定」、四種の陀羅尼經の複製なども付属資料としてご寄贈いただきました。これは、百万塔譲渡の状況を示す貴重な資料といえます。



(写真3)



(写真1)

常設展示室探検

映像コーナー

常設展示室に入ると、すぐ右側に映像コーナーがあります。四台のコンピュータがボツフスの中に置かれ、横浜の歴史や文化財についての映像番組を見ることが出来ます。番組の種類は「横浜の歴史と民俗」「横浜もののはじめと伝統」「二八区史」「指定・地域文化財」「日本通史」などに分かれ、九月下旬現在で一八五本の番組が用意されています。このうち、横浜市の各区の歴史を扱った「一八区史」や、横浜地域にある国・県・市の指定文化財を紹介した「指定・地域文化財」は、すべて当博物館が制作したオリジナル番組です。

コンピュータには番組の映像回数が記録されます。現在までの人気番組のベスト5は、第一位が「鶴見川の鳥と小動物」（一七五一回）、第二位が「横浜の歴史をたずねて」（一四一九回）、第三位が「東海道と横浜」（二二六七回）、第四位が「晴田の吉良氏」（二二五五回）、第五位が「国指定文化財関家住宅」（一〇五三回）となっています。これら人気番組はお薦めですが、これ以外にも掘り出しものの番組が盛りだくさんです。

なお、同じ機能を持ったコンピュータがステイサロンの二台あります。こちらもご利用ください。



- 4月1日▷4月のハイビジョンシアター（土・日・祝日上映）「韓国国宝の旅—石にこめた永遠の祈り—」
- 4月9日▷開館記念特別展関連講演会 石川日出志氏「弥生時代と環濠集落」
- 4月22・23日▷体験学習「ぞうり編み」
- 5月3日▷5月のハイビジョンシアター（土・日・祝日上映）「中国青銅器の世界」
- 5月5日▷開館記念特別展関連講演会 鄭漢徳氏「韓国における環濠集落」
- 5月7日▷開館記念特別展「弥生の“いくさ”と環濠集落—大塚・蔵勝土遺跡の時代—」終了（観覧者29,754人）
- 5月27・28日▷体験学習「まゆ人形」
- 6月3日▷6月のハイビジョンシアター（土・日・祝日上映）「再現法隆寺金堂壁画」
- 6月10・11日▷体験学習「竹細工」
- 7月1日▷7月のハイビジョンシアター（土・日・祝日上映）「シルクロードの謎—大宛国発掘 甕の古代中央アジア—」
- 7月7日▷連続講座「横浜の歴史—常設展示を中心に—」（8月11日まで毎週金曜日連続6回）
神奈川新聞＜よこはま版＞に「2万年の時空を超えて」とのタイトルで、学芸員による長期連載開始（毎週金曜日掲載）
- 7月18日▷来館者10万人達成
- 7月22・23日▷体験学習「土偶づくり」
- 7月25日▷＜ふるさと横浜探検1＞国史跡「三股台遺跡」と遺跡発掘現場の見学
- 8月1日▷「横浜市蔵ネイローコレクション特別公開PART2」開催（8月27日まで、観覧者9,006人）
- 8月2日▷夏休みスタディサロンミニイベント「歴史着せ替え人形」（8月中の水、土曜日）
- 8月5日▷8月のハイビジョンシアター（土・日・祝日上映）「ロスト・アニマルズ」「平安京への誘い」
- 8月12・13日▷体験学習「竹の皮ぞうり編み」
- 8月26・27日▷体験学習「まがたまづくり」
- 9月2日▷9月のハイビジョンシアター（土・日・祝日上映）「中尊寺金色堂」
- 9月9・10日▷体験学習「竹細工」
- 9月26日▷＜ふるさと横浜探検2＞国史跡「称名寺境内」と金沢周辺の歴史散歩

横浜市歴史博物館 ● 日誌 ● (95年4月1日～9月30日)

.....10万人の来館者むかえる.....

1月31日開館以来144日目の、7月18日午前9時30分に10万人目の来館者をむかえました。10万人目の来館者となったのは横浜市立桜台小学校の6年生97人。社会科見学で訪れた6年生全員に記念品を、クラス代表には花束をお贈りしました。



◀今後の企画展のお知らせ▶

◆「幻の縄文土器の時代—都筑区桜並遺跡の発掘調査の成果」(仮題) 1月13日(土)～2月18日(日)

縄文時代前期末葉は、関東地方において遺跡数が激減し、良好な資料に恵まれなくなる。まさに幻の縄文土器の時代です。しかしその一方で、遺跡からは、近畿地方や東北、東関東地方などの影響を受けた土器や石器が見つかることが多く、これら遠隔地との交流が活発化していた時期であることも物語っています。都筑区桜並遺跡の資料を中心に、大規模な集落を残すことがない一方で、活発な他地域との交流を展開していたこの時期の人々の生活の様子を展示・解説します。あわせて遺跡の発

掘から報告書の作成までの一連の工程も紹介していきます。

◆「東海道と神奈川宿」(仮題) 3月5日(火)～4月7日(日)

江戸時代の横浜市域には、五街道の中でもっとも重要な街道である東海道が通り、神奈川・保土ヶ谷・戸塚という三つの宿場がおかれていました。東海道や三つの宿場は、人々や物資が往来する大動脈として、また地域の政治・経済・文化の拠点として繁栄しました。今回の企画展では、三つの宿場の中でも最大の規模を誇った神奈川宿に関連するものを中心に、東海道と市域の宿場を描いた絵巻・屏風・浮世絵・道中双六などを展示します。

????? 知ってますか ?????

図書閲覧室

横浜市歴史博物館では、現在のところ、約二万点の図書・逐次刊行物などが収集・整理され、図書閲覧室において一般に利用できるようになっています。

閲覧室の書架には、横浜市域に関する図書資料を中心に、歴史、民俗、博物館情報資料などの一部が並べられており、自由に読むことができます。また、書庫に収められた図書資料は、カウンターで請求し、閲覧することができます。書庫には、歴史を考える基礎となる各種の「史料集」など、歴史博物館ならではの図書が多く収められています。

ご希望の図書資料を探すには、閲覧室の「検索端末機」を使ってください。書名や著者名での検索はもちろんのこと、例えば「中区」「鎌

倉時代」といったキーワードにより、図書から雑誌論文に至るまで、目的の資料を速やかに探し出すことができます。また、カウンターでは図書資料に関する様々な質問にもお答えしています。

図書閲覧室は、常設展示室の入り口近くにあり、どなたでも無料で利用することができます。閲覧室において、横浜の歴史や日本の歴史をひもといってみませんか。



横浜市歴史博物館の利用案内

●開館時間

午前9時から午後5時まで（ただし、入館は午後4時30分まで）

●休館日

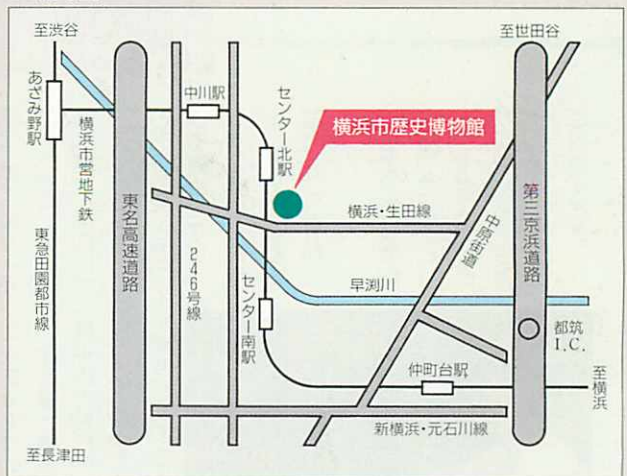
月曜日、祝日の翌日、12月25日～1月4日
そのほか展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。

●観覧料

区分	個人	団体 (20人以上、1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	100円	80円

- ◆特別展・企画展の観覧料は、別に定めます。
- ◆第2・第4土曜日は、小・中・高校生は無料です。
- ◆「長寿のしおり」「敬老特別乗車証」「愛の手帳(療育手帳)」「身体障害者手帳」をお持ちの方は無料です。

●案内図



(交通機関) 横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分

編集後記

秋から春にかけて企画展が続きます。それぞれのテーマから横浜の歴史に迫っていきます。今まで気づけなかった横浜に出会えるかも知れません。この機会にぜひ足を運びください。

